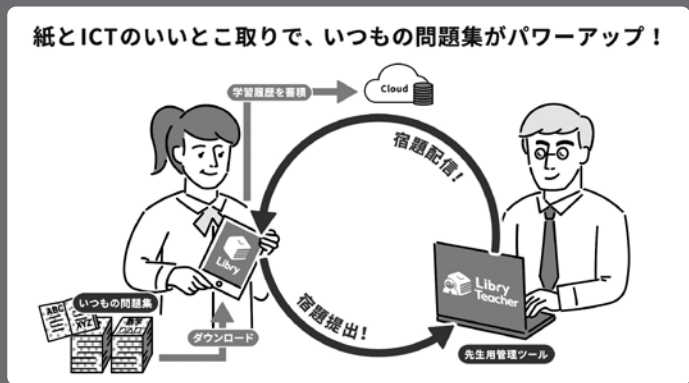




「AIドリル×宿題管理ツール」で2時間の業務削減も。
ICTで先生がもっと生徒と向き合う時間を持てるように。

リブリーとは

ICT(デジタル)とこれまでの勉強方法(アナログ)の理想的な融合を目指して考え抜かれたデジタル問題集です。紙のノートとペンを使った従来の勉強方法の優れた部分を残しながら、ICTのフル活用により「問題の検索」「苦手分野の分析」などを可能にし、生徒がより効率的に学習できるようサポートします。



PROFILE

小林 佑季子

こばやし ゆきこ

(株式会社Libry 営業部)



埼玉県生まれ。大学卒業後、埼玉県公立中学校で8年間、社会科教員として教育現場に立つ。その後一般企業で企画営業職を経験。教師はもっと生徒と向き合える時間が持てるように単純作業はICTで効率化すべきと考え、株式会社Libryに入社。

啓林館 中学教科書は
リブリーに
対応しています!



詳しくはこちら!

1 夢中で駆け抜けた教員時代

中学校の国語科教員だった父を見て、「先生」とは人の成長に携わる魅力的な仕事だと感じ、私も中学校の社会科教員になりました。

一番大切にしたのは、生徒や保護者との信頼関係を築くことです。教員時代、生徒からは「先生はちゃんと話を聞いてくれて、いつもみんなを気にかけてくれる」という意見を多くもらい、自分の心がけが生徒に伝わっていたと感じて嬉しかったです。全力で教員を8年間務め、当時の生徒から、私と同じ社会科教員を目指す子も出てきました。



教員時代の1日は、朝練のあった学校では、7時半ぐらいに学校に行き、朝の部活指導から始まりました。8時半頃に職員室で5分程度の打ち合わせをし、その後は学級に行って、朝の会を実施し、以降は授業が続きます。授業が終わったら、放課後の部活指導をします。生徒が下校した後、18時過ぎにようやく自分の事務作業に入り20時まで学校にいました。土日は部活動の練習や試合があり、丸1日休みというのは1カ月のうち何日もありませんでした。また、長期休みは研修やセミナーを受けていたため、自分の時間はあまり持てませんでした。

さらに、担任しているクラスの生徒が課題を抱えたときなどの生徒指導、毎時間生徒が自分で考える機会を持たせるなどの工夫を取り入れた授業準備でも多くの時間と労力を費やしました。

2 教員時代に抱いた課題意識

教師という職業は、生徒の成長が目に見える魅力的な仕事です。頑張れば頑張った分だけ子供たちが応えてくれるというやりがいがある一方、先生には宿題ノートのチェック、表計算ソフトでの成績管理、各種の校務分掌や生徒の生活記録の作成など、事務作業で多くの負担がかかります。

時間的に余裕がないうえに、生徒や保護者との信頼関係が崩れてしまい、その心理的な負担も加わって実際に休職や退職してしまった先生もいらっしゃいました。自分のこうした経験を踏まえて、私は「単純作業や事務はICTで効率化し、先生がもっと生徒と向き合える時間を持てれば」と少しずつ考えるようになりました。

教員を8年続けたところで、管理職や教育委員会などのキャリアも視野に入るようになりました。ずっと教職に就くか、民間企業で様々な経験を積み、その後ICTを活かして先生の負担軽減に貢献できるEdTech業界に転職をするかで迷った結果、新しいことへのチャレンジを選び、教員から転職しました。

3 ICTで働き方改革を

EdTechの会社のなかでLibry(リブリー)を選んだ理由は、最も「先生のかゆいところに手が届くサービスだ」と思ったからです。リブリーは、いつも使っている教科書や問題集をデジタル化し、AIドリル機能で学習をサポートします。生徒の目線からは、学習履歴に基づいて一人ひとりに合った問題を提案してくれて効率的に勉強ができる、重たいカバンが軽くなるなどのメリットがあります。

教員目線で見たりブリーは学校現場に馴染みやすく、使いやすいサービスです。いつもの教科書や問題集をそのままデジタル化しているので、指導内容を変えることなく導入することができ、教員の働き方改革に

大きく貢献できるサービスだと自信をもってお勧めできます。

授業では、デジタル教材として電子黒板に紙面を投影することで板書の手間が省けます。また、演習としてリブリーで課題を配信して生徒に取り組みせれば、早く終わった生徒には類似問題機能でより高みを目指す指導ができるため、先生は学習の苦手な生徒へ多くの時間を割くことができます。

さらに、教員向け管理ツール「Libry for Teacher」を使うと、生徒の学習状況の確認や宿題管理を簡単に行えます。「宿題管理機能を使い始めてから、1日3時間かかっていたノートの点検が15分で完了するようになった」という声もいただきました。データに基づいて、授業準備を効率的に行えるようになった事例もあります。

The screenshot shows the Libry for Teacher interface. At the top, there's a header with the Libry logo and a note: "現在確認からのお知らせはありません。" Below this is a dashboard with several metrics: "問題レビュー", "ノートを見る", "回答率", and "正答率". Each metric has a progress indicator (circles) and a percentage. Below the dashboard is a table with columns for "生徒名", "完了報告 (すべて)", "スタンプ (すべて)", "回答率 (すべて)", "正答率", "一覧", "確認", and six columns numbered 1 to 6. The table lists three sample students (サンプル生徒1, 2, 3) with their respective completion status, stamps, and performance metrics across the six columns.

生徒名	完了報告 (すべて)	スタンプ (すべて)	回答率 (すべて)	正答率	一覧	確認	1	2	3	4	5	6
サンプル生徒1	あり	🌟	100%	50%	🌟	🌟	X	△	○	△	○	○
サンプル生徒2	あり	🌟	100%	83%	🌟	🌟	○	○	○	○	○	X
サンプル生徒3	あり	🌟	100%	17%	🌟	🌟	X	○	X	X	△	X

実際、学校に足を運び、先生方にリブリーの説明をすると、「これが欲しかったんだよ」という声を多くいただきます。「Libry for Teacher」で生徒ごと、問題ごとに解答率と正答率が自動集計されて一目で分かることや、長期休暇中の課題もふくめて生徒の取り組み状況をリアルタイムで先生が把握できるところが好評です。

単純作業はICTに任せて、先生が生徒のために効率的に時間が使えれば、先生も余裕を持って生き生きと働けるようになります。ICTによる恩恵を受けるのは先生だけではなく、最終的にすべて生徒に還元されます。ぜひ先生方には生徒のための時間を多く持っていただくため、学校現場に寄り添ったICTを活用していただければと思います。